

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

松下幸之助から学んだ経営者の原則 松本 晃 (カルビー会長兼CEO)

1. 松下幸之助さんはいろいろなことを言っておられるが、私が思うに経営者としての軸は一つだ。何かというと、ビジネスは「世の為、人の為」にやるということ。これが基本。どんなことでも、世のため人のためにならないものはいっさいやらない、やるべきではないと考えておられた。
2. しかし、会社はボランティアじゃないしNPOでない。だから次に大事な柱としてきちんと儲けよというメッセージが出てくる。儲けられなければ、設備投資も商品開発もできない。従業員に月給も払えない。ボーナスも出せない。税金も払えない。配当もできない。社会貢献もできない。そんな会社は社会的にいいのかとただされた。
3. 人材育成について、私が幸之助さんから学んだ原則は三つある。一つは「経営者は従業員を豊かにしないといけない」ということ。この豊かさは、幸之助さんの若い頃と今では違う。しかし、根底のところは変わらない。やっぱり今日より明日、人は豊かにならないとダメなんだ。二つ目としては「仕事でワクワクさせないといけない」ということ。三つ目は「仕事を通じて人を成長させる」こと。リーダーとしてこの三つを行えているのかどうか、自問している。

(参考:「週刊東洋経済」2016年9月3日号)

新規成長分野

過去最高の観客動員数 (歌舞伎座)

1. 1889年に誕生して以来127年もの間、銀座の東に位置する旧木挽町に歌舞伎の殿堂として鎮座する歌舞伎座。和風桃山様式の建物は、威風堂々たる姿を見せている。歌舞伎座はこれまで戦争や天災といった災禍に何度も見舞われ、建て替えをくり返してきた。2013年に再開場した現在の歌舞伎座は、始まって以来のにぎわいを見せており、過去最高の興行成績を挙げている。
2. 80万~90万人をうろうろしていた観客動員数は、2013年度に132万人を記録、2014年度も101万人と100万人を突破した。その理由は、中堅から若手の歌舞伎俳優が中心となって、さまざまなことにチャレンジしている。第一幕では「伝統力」「革新力」「人材力」の三つのキーワードを軸に、彼らの取り組みを紹介している。その取り組みは、決して奇をてらったものではなく、次世代に活況な歌舞伎を引き継ぐために今やるべきことをやっているのだ。

(参考:「週刊ダイヤモンド」:2016年9月24日号)

人事・労務について

定年退職後「看坊職」へ

1. 兵庫県姫路市にある臨濟宗、妙心寺派の名刹・龍門寺。ここで修行を積む「僧侶の卵」たちがいる。一見すると普通の禅寺。だが、大きく異なるのが、住み込みで修行する5人全員が60歳を超える企業の定年退職者という点だ。化学メーカーや通信会社、建設会社など国内の名だたる企業でサラリーマンとして働き、定年後に仏門をたたいた。
2. これは龍門寺が、2014年から始めた定年退職者だけを対象にした修行プログラムである。高齢に配慮し、町中で施しを受けて回る「托鉢」や1日の座禅の回数を減らすなど、修行内容は緩めに設定されているが、1年間の修行期間の後、本山の読経などのテストに合格すれば、「看坊職」という肩書が得られる。仏教会で問題になっている住職がいない「空き寺」の留守番役となれるのだ。

(参考:「日経ビジネス」2016年9月19日号)

古典に学ぶ

仁とは人なり

(解説) 孟子は孔子のすぐあとについて言う。「不仁にして国を得る者はこれ有り、不仁にして天下を得る者はいまだこれ有らざるなり」と。また言う。「天下心服せずして王たる者はいまだこれ有らざるなり」と。孔孟ともに、統治者のこの不可欠要件を定義して言った。「仁、仁とは人なり」と。

(参考:佐藤全弘(訳)新渡戸稲造著「武士道」:教文館)